

たむぎやま

新そば祭り

涌井清嗣

田麦山新そば祭りが十一月二十六日公民館を会場に開催されました。

白い花を咲かせた蕎麦も十一月初めに刈取り、沢山の作業も何とか間に合わせることができ、無事新そば祭りが開催出来ました。

私達「田麦山そばの会」は趣味の会です。今年はそのそば打ちを習いたい、そばを打ちたいと市内各所から仲間が増えました。

蕎麦打ちでは「ふのり」の量はどれくらい、水回しは丁寧、のぼし具合はどう、など聞く人、教える人など、回を重ねるたびに腕を上げ、道具も少しずつ買え揃え、話が尽きない仲間たち、和気あいあいと楽しい時間です。

女性スタッフはマイタケ、かき揚げなど天ぷらを準備します。

十一時開店を待ちわびたかのように来場者が有り、約二時間で予定した蕎麦を完売。お客様に声をかける時間も無く、そばゆでに追われました。今年には川口各地区のそば打ちグループが一同に「越後川口新そば巡り」のスタンプラリーが行われ、田麦山も参加しました。

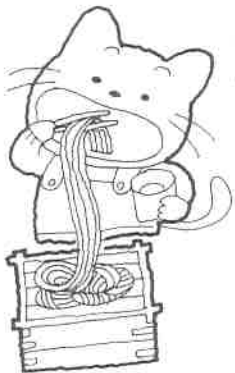
日程の都合から土曜日開催となりましたが、新潟や長岡など遠方来場者もあり、地元からも例年同様多くの方から足を運んでいただき大盛況でした。

「美味しかった」と言葉を頂き、新そばの香りや味を味わっていただいた一日でした。

平成 23 年
12 月 20 日発行

新潟県
田麦山地区館

私達会員も回を重ねるたびに腕をあげ、蕎麦らしいそばになってきました。次回開催にまた足を運んで下さい。田麦山の皆さん蕎麦打ちをしてみたい方の「蕎麦の会」の入会をお待ちしています。



『保育所の発表会を見て』

大淵 直美 (山新)

小雨の降る十二月三日に東保育所にて発表会が行われました。

我が家の双子達も年長になり、保育所最後の発表会となりました。カメラやビデオを持ち、子ども達を車に乗せ、家族で向かいました。

全員で歌を歌ったり、年長組の鍵盤ハーモニカやダンス、オペレッタなどの劇を楽しく見させてもらいました。我が子は「火炎太鼓」という踊りを披露しました。太鼓のバチを持って側転したり組体操などの大技をしたりと、客席から歓声があがるくらい、カッコイイ踊りを見せてくれました。

年長組のハキハキとした大きな声、堂々としたあいさつに成長したなあと感心しました。年少の頃、バスに乗るのがイヤで二人で大泣きしていたのを思い出し、発表会を見て子どもの成長を感じられた日となりました。



うちのわんこ

水落 小百合 (大形 重石工門)

水落 ハリー・犬種・生年月日共に不明。毛色は黒が主流の白とベージュがちらほら。短毛でスラリとした長い脚なせがおしりと尻尾の先だけは白。ハンタードッグ(猟犬)的な外見でなかなかカッコイイ男の子であります。

二〇〇八年 十月に苗場の山中で発見、保護され、保健所で飼い主を探していることを聞き、我が家へとやってきたハリー。「火薬の影響かな…」と獣医さんが言った言葉にはっとして目を見たら緑色で、問いかけた私に「重度の緑内障で、視力はほとんどない状態」と言われました。「猫に使えない犬はそのまま山に置いていかれることが多いんだよ」言葉を失いました。人間に道具として扱われ、捨てられた命…。運よく保護され私と出会うことができたのも何かの縁のせい即決で我が家に来てきたという次第であります。

あれから丁度3年…。最初は脚や尻尾、背中はとても嫌がって触れるだけで怯えていた彼も、半年ぐらいの頃から落ち着いてきてシャンプーのときのポディータッチも平気になってきました。うちに来る以前は、仲間の犬達にもいじめられていたのでは?と思う異常な反応もほとんどなくなり、今では誰よりもでっかい顔をして私にシャンピンクキッス! をするまでになりました。(教えていないのに…)。

目は見えずともさすがは犬。鼻と耳、からだ全体を使って周りの状況を感じとって散歩をしたり、他のわんこ達(特にシエパのさくら)とじゃれあってみたり…最後はやられまくったり…と、穏やかに?楽しく暮らしております。ガンバレ、ハリーくん!



『おまえがいるすけえ』

佐藤 榮吉

小宅(野田市)の庭でたわわに実る柿の木を見上げるようにして白や黄、赤の《菊の花》が咲き誇っています。菊の季節に田麦山で生まれ 菊の季節に行った(逝った)姉く菊枝! おまえがいるすけえ田麦山に帰るのが、どんなにか張り合っていたか… 今更ながらに姉の穏やかで温ったかい笑顔の素晴らしさをかみしめています。

「湯沢で新幹線を降りると空気がうまく感じ、川口駅に降りると空気が更にうまくなり、タクシーで田麦山に着くと何とも言えない空気のうまさに、思わず深呼吸をするんだよねー」 何十年も何十回も同じ感想を口にしながら姉に手作りのごちそうとお酒を頂く。

《至福のひと時》

田麦山に帰ると(震災時は)兄の住宅↓神社参拝↓実家跡を見て↓お墓参り↓大日堂の地藏さんにあいさつ、が定番コースです。そして佐兵衛さん宅へ。

《この瞬間が何とも嬉しい!》 「いるけえ?」と言いながらスタスタと上がり込む。姉が出て来て、「あー、よく来たのおー」

次々と出してくれる、ぜんまい・わらび・ずいき・菊の花の酢の物・たけの子・アスパラ等々、その時のその時、田麦山の季節の味をたんのうしながら一献また一献しこたま飲んで「まんま食うけえ?」と言われると別腹に絶品の茄子やキュウリの漬物でごはんが交替できるから不思議。

震災直後、大きく傾いた実家の中に入り二階や三階の奥で船酔いするような感覚になりながら、食器や衣類などの片付けを女房とやっていると、姉が来てくれ余震の心配も何のそのと一生懸命手伝ってくれたり、がれきの中から私の昔のノート等を見つけてくれたり…姉のすこさを目の当たりにしたものです。

誰でも人生には凸凹があります。私は凹に酒をついで飲むような無芸大食人生ですが、姉は凹に《温かさ》をついで凸にするような人間的なすこさがあつたと思えます。熊野神社祭礼の仮装大会で姉がどんなに変装しても「あつ、あれだな姉さんは!」とすぐにわかりました。

そんなかけがないの素敵な最愛の姉はもういない… まだまだ、バイクにまたがり元気にあちこち顔を出したかったらうけど…でもたくさん皆様に送られての旅立ちの姉の一生を祝っているかのようでした。

働き者の姉にふさわしい小春日の好天。野辺送りに集まってくださつた多数のみなさんの中に(私も)知っている方々がたくさんおられました。傍佗(ぼうだ)とあふれる涙にかすみお礼の挨拶も目礼の挨拶すら出来ませんでした。この紙面を借りて心からお礼申し上げます。

「あー、よく来たのおー」声は聞けません、姉のいる田麦山をずーと大好きでありたいと思っています。



《おくやみ》

十一月十九日 渡辺 善晴さん 九十五歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。(田中 与右衛門)



『編集後記』

暖かい日が続き油断していたら、あつという間に積もってしまった。また雪と格闘の毎日が始まるのかと思うと…

今年も残すところあとわずか、日本も外国も大変なことの多い年でした。来年はどうか穏やかな年になりますように。みなさまよいお年をお迎えください。